

第1回 学校運営協議会 議事録

実施日：令和4年5月20日（金）

場 所：六郷高等学校会議室

1 委員委嘱・出席者紹介（別紙名簿を参照して校長より）

委嘱状は現在、県で準備をしているので、後日交付する予定である。

2 校長挨拶

今年度は学校運営協議会制度を始めて4年目を迎える。学校として、地域と協力し充実した教育活動に当たりたい。また、少子化に伴う中学生の影響も念頭に置きながら、本校のコミュニティスクール活動を展開していきたい。その上で、ご理解とお力添えを引き続きよろしくお願ひしたい。

3 会長、副会長の選出について

事務局案を提示し、拍手で承認をいただいた。

会長 佐藤 良一 様 副会長 福田 世喜 様

4 学校運営協議会会長挨拶

昨年度もコロナウイルスの影響でなかなか活動できなかった。コミュニティスクールでは、学校と地域住民等が力を合わせ、学校の運営に取り組むことができる、地域とともにある学校になるための有効な仕組みである。この後、校長より示される運営方針を承認する作業が初めにある。委員の役割も、地域と一緒にあって特色ある学校作りに努めることで、本校のように地元就職率が高い普通科高校の特色をどのように作っていくかが重要な課題と考える。そこで今日の分科会でも、色々と忌憚のない意見を出していただければと思う。関係各方面でのご理解とご協力を引き続きよろしくお願ひしたい。

5 協議

(1) 学校運営方針について（校長より）

文言等は昨年度と変更はない。しかし、卒業時に本校生徒が身に付けているべきものを明確に謳っており、そのための教育活動を学校として実践していくべきである。重点目標では、自立しながら地域を支える人材、同時に人間的に適切な考えを持った人物の育成を掲げている。また、普段の学習活動において話し合いの活動を多く取り入れることで、互いに学びあい、やりとりを通して協力して学び、完遂させる姿勢を身に付けさせたい。地域を支える人材育成においても、生徒には活動を通して、地域社会の良さや大切さを知ってほしい。以上を踏まえ、よろしくご審議いただきたい。

<質疑応答>

<鈴木 正洋 委員より>

校長からの説明のあった学校運営方針については理解できた。現在、町では「美郷町第3次総合計画」に語りたくなるような町づくりがある。この考えを六郷高校にも応用できたらいい。六郷高校を自慢できる学校にしていくことが大切である。

<佐藤 良一 会長より>

方針で学力以外にコミュニケーション重要性を根底において謳っているのは、斬新な感覚を覚える。

<福田 世喜 副会長より>

新しい学習指導要領に基づいて、運営方針が示されている。地元企業からもコミュニケーション力の育成についてご意見を多くいただいている。ちなみに校長として、とりわけコミュニケーション力の大切さを意識している部分は含まれるのか。

<高橋 雄一 校長より>

授業を通して学び、地域を支える人材育成に向けた地域との交流をさらに推進していきたい。

<佐藤 良一 会長より>

先の教育振興会でも話題になったが、本校生徒（高校生）が大人（社会）と接する機会をしっかりと確保していくことが大切だと思う。大人とコミュニケーションする力を身に付けるために、職場体験や実習など、実践的にトレーニングすることが大切である。福祉科は色々と実践しているが、普通科においても、ぜひ幅広い実践的なトレーニングをする機会を確保いただきたい。

<檜森 吉裕 委員より>

六郷高校の卒業生は地域で活躍している。世の中では職人が不足する問題が起きている。職人として技術を習得することで高い収入を得ることができる。実際に、初めは不向きと考えていた職業が自分に合っているということに気付くケースも少なくない。そこで高校では、仕事の選び方、さらにその上で様々な選択肢があることを、さらに示してほしい。

<佐藤 良一 会長より>

町の商工会で工業部会がある。そこの協力を受けながら、インターンシップや工場見学、さらには経営者の生の声を聞いてディスカッションする機会を設けると進路選択で有意義なものになってくるのではないだろうか。この他、町のイベントを活用することも一案だろう。

<藤岡 誠人 委員より>

今年、夜市が2年ぶりに開催される。夜市の開催目的は2つある。1つは、町のにぎわいを保つこと、2つ目は子どもの情操教育に寄与することである。できるならば、高校側と一緒に町を盛り上げていきたい。

<佐藤 良一 会長より>

祭りボランティアで与えられた役割をこなすだけでなく、祭りを作る上で高校生の意見が入るといい。

<鈴木 正洋 委員より>

どのようなボランティアをしたいのか、構想段階から高校生が参加すれば、主体

的な学びや協働作業を实践できる。よって教育的な効果も期待できると思う。ぜひ、多くの場面でそうした場を設けてほしい。

<高橋 郷 委員より>

重点目標にある職業的自立について、具体的な考えやプログラムはあるのか。

<高橋 雄一 校長より>

学校として、即戦力につながる具体的なスキルを想定しているわけではない。少なくとも、自分の適性にあった仕事を選び、その中で学び、覚えていく資質の基礎一般を指しているなので、お含みおきをいただきたい。

<福田 世喜 副会長より>

文部科学省でキャリア教育において、生徒が習得すべき能力を4つ示している。それは課題解決能力、人間関係形成能力、自己管理能力、キャリアプランニング能力である。社会的、職業的な自立を目指すという観点でキャリア教育計画が本校でも整っているはずである。

<佐藤 良一 会長より>

以前、ある会社で新入社員を対象に講話をした。そこでは、会社のためにできることを話した。そこで会社の一員になることの意味なども、キャリア教育の中で学習する機会を設けていただきたい。

<新田 義孝 委員より>

中学校では、町の一員として提言できる機会を作ることにしている。実際に外部の方と意見交換する機会を見ている。その時はよろしくお願ひしたい。

<佐藤 良一 会長より>

ここで校長から示された運営方針を承認してもよろしいだろうか。

(全体から承認を受ける)

<福田 世喜 副会長より>

秋田県立高等学校地域留学支援事業が今年度からスタートした。その学校の特色を活かして県外からの留学生を招聘する制度である。今年度は男鹿海洋高校が男鹿市と連携して取り組んでいる。本校も県内唯一の福祉科と栄光の歴史と成績を有する自転車競技部を基に参加の可能性を探るのも一案かもしれない。本校がこの事業に参加すれば美郷町としてもバックアップしたい。共に動くことで六郷高校の特色作りに寄与するのではないかと思う。

(2) 年間スケジュール及び協議内容の概要説明

今年度は教育活動を徐々に例年ペースに戻しつつ、その中で地域と学校が双方向的につながり、生徒に還元できる教育活動を実践していきたい。年間計画を別紙資料にて示しているが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により予定を急変する可能性もあるのでお含みおきいただきたい。本日の分科会において、先程承認された学校運営方針を踏まえて各部会でどのような六高生を育てていきたいか、そのための目標と施策を話し合っただきたい。また、各部会で様々な活動を本校の志願率低迷の歯止めはどうつなげていくかを話し合っただきたい。

6 各専門部会に分かれての話し合い

7 各専門部会からの報告

ボランティア等の地域貢献活動

目標 地域ボランティアや体験活動の推進
地域との防災活動のあり方追求

- 施策 ① 地域ボランティアや体験活動の推進
特に、様々な事業について企画段階からの参加を重視
- ② 防災に関する地域との活動展開
- ③ 六郷高校からの情報発信

広く深く豊かな学習活動

目標 地域と共に魅力ある授業を目指して
(地域人材の積極活用を含めて)

- 施策 ① 授業や実習における地域人材の活用
- ② 地域の課題を探求し、解決できる活動の実践
- ③ 支援学校や幼保・小・中学校との交流

キャリア教育を推進する活動

目標 職業理解の機会を確保しながら、進路意識と規範意識を高め、主体的、積極的に自己実現を図る。

- 施策 ① 町内企業による就職希望者への指導
- ② 同窓生のみならず地域の方々から幅広く生き方について学ぶ。

8 その他（質疑応答も含めて）

<鈴木 正洋 委員より>

美郷町議会だよりの表紙を本校写真部が飾っている。特に、この5月号は大きく好評をいただいている。小学校から問い合わせがあり、小学生と交流しながら学校行事を撮影する機会を今後は見据えてもいいのかもしれない。これに際して、外部から技術指導などがあつた場合、謝金があつてもいいと思う。可能であれば教育振興会から支出いただくとありがたい。

この4月から自転車保険に関して義務化されたが、本校として全体一括加入している保険はあるのか。

<佐藤 隆弘 生徒指導主事より>

各家庭に自転車保険義務化の案内配付と加入実態調査をこれまで実施してきた。保険の加入状況について調査する必要があるものの、現状としては各家庭に委ねている部分が多い。今後も引き続き、保険加入の必要性など周知をさらに務めたい。